

p 松茸山（共有地）の保全を長野大学と協働作業とする提案について
上田市山田地区と長野大学環境ツーリズム学部森本ゼミとの里山再生協働活動 計画書

長野大学 環境ツーリズム学部 森本英嗣

◎理念与目的

- ・ 塩田地域においてマツタケは重要な地域資源であり、子・孫の世代のための保全は必要不可欠である。
 - ・ アカマツ林は塩田地域の里山を代表とする山林であり、それによって形成される景観は保全すべきである。
 - ・ 現在の集落の人口構成を鑑みると、上記課題を解決するためには人材不足の問題点を解消することが必要である。
 - ・ 地域課題解決を大学の理念としている長野大学とその学生によって、現在抱える塩田地域の課題解決を図り、山田地区をモデルケースとして、塩田地域のアカマツ林再生に資する知見を集積する。
 - ・ 長野大学の活動拠点として山田地区を設定することで、山田地区は人材不足の解消、長野大学は地域課題解決策を導き出すための研究活動を実施できる（win-win の関係）。
 - ・ 若年層と地区住民との人材交流を図り、「研究・活動経験」が地域への「愛着」に発展を期待できる。
 - ・ アカマツ林整備の際に発生したバイオマス資源は、地元で有効活用を図り地域の資源循環システムを再構築する。具体的には、原木キノコ栽培用ほだ木、薪として利用・販売する。

◎ 活動スケジュール（2017年）

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

- ①樹幹注入下見（2月上旬）
- ②樹幹注入作業（2月下旬）
- ④現地視察（2月26日）
- ③山の手入れ（3月19日）

活動体制ならびに規定の策定（ルールづくり）（～3月末）
(松茸シーズン)

ゼミ実習（森林整備、バイオマス搬出、利用のための加工）

山田自治会の作業を手伝い、
山の手入れ方法の要領を学習

⑤除伐・搬出作業（松茸シーズン前後、計4回実施）

⑥除伐材の加工（松茸シーズン中、1～2回）

◎自治会皆様へのお願い

上記作業の内 ①, ②, ③は自治会作業に長野大（森本ゼミ生）が参加予定です。⑤, ⑥は長大ゼミの作業で立ち合いは自治会判断でお願いします。④は長野大学（千曲川流域学会）のシンポジウムに付随した現地研修会でアカマツ林の見学を希望いたします。

また、作業は安全第一とし無理のない計画 慎重な作業とします。安全教育、保険等は長野大学で対処します。そして、年度末に作業の進捗具合、活動の成果の経年研究等 次年以降の活動協議をお願い致します。

◎ 上記提案を受け 山田自治会の現状として

文書作成：山田自治会担当役員

松茸山保全事業

○山田自治会はかつて大いなる恵みがあった松茸山の20年30年先を見越した復活保全活動を積極的に行ってています。

○松くい虫被害予防の樹幹注入薬剤を上田市に申請・支給（本年別所分合せ500本）を受けています。

○樹幹注入作業は、冬季中の実施が有効的であるが、それに伴う樹幹注入対象木の選定、樹幹注入作業、注入薬容器の撤去、は役員（共有地・土木・自治会長・副会長・協議員）が行っている。しかしながら、雪・氷の山中仕事で負担や気苦労が多いです。

○山の手入れは毎春に自治会員義務人足をつのり、松茸小屋周辺ほか整備作業を行っています。

○昨年は子や孫の笑顔を想像しながら、被害木撤去箇所に耐性松300本を定植しました。しかし周辺の広葉樹や下草の除去労務が実施されなければ、このままでは枯れる恐れがあります。

○追って生じてくる松くい被害木の除伐・搬出は被害拡散防止のため速やかに行うべきですが労力、予算の不足で対処が遅れています。

松茸山の収入（賃料）は自治会収入の内で大きなウェイトを占めており松茸小屋の好調な営業は欠くべからずと考えます。インターネットでお客様は、地産のホンモノを求め、手入れをした景色の良い山をちゃんと調べてやって来ます。しっかりとお応えしなければなりません。

- ・長野大学の活動拠点として山田地区を設定することで、山田地区は人材不足の解消や観光誘致策として、長野大学は地域課題解決策を導き出すための研究活動を実施できる win-win の関係が構築出来ます。山田の子供たちもお兄ちゃんお姉ちゃんたちと一緒に学びましょう。

事業の責任者； 依田 達雄 山田自治会長

(副) 金井 敏彦 副自治会長

担当役員 吉田 敏八 共有地係

〃 川田 富夫 協議員

